

回遊行動分析にもとづいたまちづくり・開発事業・商業へのコンサルティング

さいとう さぶろう
齋藤 参郎 経済学部 教授

キーワード 交通行動分析・回遊によるまちづくり、都市開発評価、消費者行動分析、回遊行動分析、まちづくりマーケティング、知的パーソナルナビゲーションシステム、発展途上国の消費者の環境保全ゴミ処理行動・経済分析

研究概要

回遊性にすぐれた都市空間や商業空間の整備に資するため、福岡都心部への来街者を対象とした消費者回遊行動調査を10数年間継続して実施し、約2万件の回遊行動データを蓄積している。これらの来街地ベース調査データを解析する独自の統計解析手法や回遊モデル、また、消費者の回遊行動から派生する経済効果の予測手法を開発してきた。

新規の消費者回遊行動調査の企画・実施、あるいは、既存の回遊行動マイクロデータを利用し、独自の統計的手法や回遊モデルにもとづいて、都市空間や商業空間での消費者の回遊パターンや回遊流動者数を正確に推定・予測するとともに、都市空間や商業空間の回遊性の評価分析や経済効果予測を行う。

研究内容及び今後の展望

福岡都心部を中心に消費者の回遊行動マイクロデータを大量に蓄積し、回遊行動の実態把握や購買行動特性を分析するための統計的手法の開発と分析を行ってきた。

現在、その研究手法や枠組みを国内の都市だけではなく、上海、北京、ソウル、台北、ハノイなどの東アジアの巨大都市へと広げている。東アジアの巨大都市消費者の買物行動や回遊行動の調査の企画・実施や市場分析などへの展開を図っている。

さらに、来訪者のまち歩き満足度・来訪価値を高めるため、知的パーソナルナビゲーションシステムの知的機能の実用化研究を推進している。

これは携帯電話を介して大量に収集された消費者行動マイクロデータから、マイニングによって、来訪者の行動規則・行動文法を抽出し、個人の選好・趣向に応じた、まち歩きの情報提供を実現し、回遊促進による都心経済の活性化を図ろうとするものである。

現在、地元企業や国内外の研究拠点とともに、「ハイパーテキストシティ構想」に向け、社会実験を企画中である。

これらの研究を通して、都心空間や商業空間の機能や業種構成の最適設計理論の構築を目指している。

また、既存の研究を、高齢者の行動や発展途上国における消費者の環境保全行動、観光行動などへ適用・展開している。

詳しくは、下記の福岡大学都市空間情報行動研究所(FQBIC)のホームページをご覧ください。
<http://www.qbic.fukuoka-u.ac.jp/>



ハイパーテキストシティ社会実験によるまち歩きと都心経済の活性化

研究適用分野・用途

消費者行動分析、回遊行動分析、まちづくりマーケティング、知的パーソナルナビゲーションシステム、地理情報システム(GIS)、交通行動分析、回遊によるまちづくり、都市開発評価、立地評価分析、発展途上国の消費者の環境保全ゴミ処理行動・経済分析

研究設備	福岡大学都市空間情報行動研究所(FQBIC)の研究設備 (GIS、データベース、統計解析ツール)		
企業に対する ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 共同・受託研究の相手	<input type="checkbox"/> 試作に協力する企業	
	<input type="checkbox"/> 研究成果の事業化のパートナー	<input type="checkbox"/> その他 ()	
特許取得状況等	(有)	無	特許379344号(2006)、特開2004-102697